

第4期第3回
札幌市市民活動サポートセンター
事業運営協議会

議 事 録

日 時 : 平成 2 1 年 6 月 2 4 日 (水)
場 所 : 札幌エルプラザ 2 階 会議室 1 ・ 2

1. 開 会

事務局（会田主査） 皆さん、こんばんは。

本日は、お忙しい中をご出席いただきまして、ありがとうございます。

これより、札幌市市民活動サポートセンター事業運営協議会を開催させていただきます。

議事に入りますまで進行を務めさせていただきます会田と申します。よろしくお願いいたします。

2. 財団法人札幌市青少年女性活動協会事務局長あいさつ

事務局（会田主査） 開会に当たりまして、市民活動サポートセンター指定管理者として管理運営を行っております財団法人札幌市青少年女性活動協会事務局長の高橋よりごあいさつをさせていただきます。

事務局（高橋事務局長） 皆さん、こんばんは。

事務局長の高橋でございます。

市民活動サポートセンター事業運営協議会の開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

委員の皆様方には、大変ご多用のところ、ご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

今回は、第4期の3回目ということでございまして、平成21年度としてはきょうが初めての協議会でございます。あらかじめ提示させていただいておりますけれども、本日は、5項目について議事を予定しておりますので、委員の皆様から貴重なご意見をいただき、それを事業の運営に反映させてまいりたいと考えているところでございます。

なお、前回の協議会におきまして、検討議題として事務ブース使用団体への支援方法についてご協議をいただいたところでございますけれども、その後、委員有志の皆様の熱心なご検討をいただきまして、大変貴重なご意見をいただきました。まことにありがとうございました。そのご意見をもとに私ども職員で基本的なスタンスをまとめさせていただいておりますので、後ほど報告させていただきます。

また、今年度は、このエルプラザ公共4施設は指定管理者として最終年度を迎えているところでございます。私ども協会といたしましては、この施設の目的であります市民活動の総合的な促進を図ることにより、活力ある地域社会の実現に寄与する、そのための拠点施設としての役割を果たすべく、これまでもさまざまな事業を展開してきたところでございます。指定管理者としての最終年でありまして今年度につきましても、職員一同、全力を挙げて事業を推進してまいりますので、皆様方のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

なお、次期の指定管理者についてでございます。過日、新聞報道もされておりましたので、お読みになった方もいらっしゃるかと思いますけれども、5月末から6月上旬にかけて開催されました札幌市の第2回定例市議会におきまして、当該施設、エルプラザ公共4施設につきましては非公募施設ということで変更になってございます。

そういうことで、私どもは、次期指定管理期間におきましても、この施設の役割をさらに発揮させるべく、これまで委員の皆様方からいただきましたご意見も十分参考にし、次期指定管理へ提案してまいりたいと考えているところでございますので、どうか今後ともご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます、開会に先立ってのあいさつとさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局（会田主査） 今回の会議につきましては、市民の皆様への傍聴席を用意し、会議の経過を聞いていただくことができます。さらに、市民活動サポートセンターのホームページにおきまして議事録を公表させていただきます。皆様の前にマイクがございます。集音にご協力のほど、よろしくお願いいたします。

なお、本日出席予定でありました榊委員は、ご自身の研修発表の時間と重なったため欠席させていただきますとの連絡をいただいております。同じく、西井委員につきましては、お仕事の都合で本日欠席ということで連絡をいただいております。よろしくお願いいたします。

3. 議 事

事務局（会田主査） それでは、議事に入らせていただきます。

ここからは、横江座長に進行をお願いいたします。

横江座長 皆さん、どうもこんばんは。

札幌市の拠点施設ということで、大事な館の運営ですけれども、皆さんのお手元に次第があるかと思いますが、本日の議事は、（１）平成２０年度事業実施報告、（２）平成２１年度事業状況について、（３）事務ブースについて（報告）、（４）検討事項「交流活動支援事業（しみサポカフェ）の展開について」、（５）事務ブース使用団体選考委員の推薦についてです。

最初に、事務局の方に議事（１）（２）についてまとめて説明をいただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

事務局（小野主査） それでは、お手元の資料別紙１、平成２０年度札幌市市民活動サポートセンター事業実施報告をごらんください。

１ページです。

前回の第４期第２回協議会は平成２１年１月２８日に開催いたしました。その際、２０年度事業実施報告をさせていただいておりますので、１月以降に実施いたしました事業につきましてご報告申し上げます。

中段、市民活動情報誌の発行「みんなのしみサポ」です。

お手元に第２０号のみんなのしみサポをお配りしております。３月６日に発行いたしました。年間３回の発行を実施しております。

なお、２１年度の情報誌の発行に関しましては、委員の皆様方からのご意見またはアド

バイスを取り入れて、A 5 判から A 4 判とし、字のサイズも大きくし、どなたにでも読みやすい情報誌を目指して作成する予定であります。21号を楽しみにしてください。

続きまして、4ページをお願いいたします。

上段、しみサポ調査隊です。

この目的といたしましては、一般市民に対しまして、市民活動の周知、また市民活動の周知度、サポートセンターの認知度を調査する目的で実施してまいりました。昨年度は4会場の実施となりました。その実施のアンケート集計報告が7ページ以降に載っておりますので、ごらんください。

10ページには、実施している様子の写真が掲載しておりますが、「まちづくりフェスタ2008」です。

サッポロファクトリーのえんとつ広場にブースを設けまして、パネルを使用し調査隊を実施いたしました。また、11ページになりますが、北区民センターのロビーをお借りして実施いたしました。調査結果として、12ページ以降に集計結果を掲載しております。

まとめとしまして、14ページに記載。一般市民の方々には市民活動に対する興味・関心が持たれていることがわかりました。我々として、今後、もう一步踏み込んだ参加意識を調査、把握できるような設問を考えていき、より多くの市民に周知を図っていきたいと考えております。

なお、15ページから18ページはパネル表示のモデル図になっております。

最後の報告になりますが、皆様のお手元に市民企画講座報告書の小冊子が配られております。平成20年度「市民企画講座の報告書」のまとめができました。

昨年度実施、31団体の様子が克明に記載されております。講座を実施した団体に共通することは、自分たちの団体の活動を広く市民の方々へ知っていただくために真剣に取り組み、実施した結果をきちんと自分たちの団体で受けとめて、それを振り返ってこれからの活動に生かしていこうという姿や気持ちが伝わってきております。また、この報告書を多くの市民が手にとっていただき、市民活動への興味、関心が芽生えていただき、実施団体にとって活動のステップになることを期待しております。

それぞれの団体のアンケートの結果も後ろに載っておりますので、後ほどごらんいただきたいと思っております。

続きまして、19ページに移ります。

施設の利用状況の報告をいたします。

市民活動サポートセンター施設利用につきまして、施設利用件数は前年度に比べて増加しております。また利用人数は若干減少しているのが数字でわかると思っております。後ほどご説明いたしますが、少人数での利用が増え、件数が増加しているのがわかります。

続きまして、20ページです。

会議コーナーの利用率としましては8割を超えております。そのほか、4階にあります男女共同参画研究室1から4の部屋（相互利用）件数が大幅に増加しております。あわせ

て、消費者サロン、ミーティングルームのいずれも相互利用件数は増加しております。前回もご説明いたしましたが、会議コーナーを利用希望したがふさがっているため、4階またはほかの部屋がないかということでご案内を申し上げております。そういう結果がここに数字にあらわれています。また、会議コーナーは利用中の声が外に聞こえます。声が漏れない部屋を希望ということで、最初から4階の男女共同参画研究室を申し込む方がふえております。

続きまして、21ページです。

市民活動団体等登録数集計表です。前年度に比べまして減少しております。皆さんご存じと思いますが、21年2月から3月にかけて実施いたしました団体情報の調査に伴う登録団体の削除ということになります。

続きまして、22ページです。

サポートセンターの相談件数。前年度とほぼ同数です。現在、第2弾の市民活動相談報告書を、さぼネットの皆さんとともに作成中であります。内容としましては、「まちづくり活動促進基本計画素案」に対しまして、市民からたくさんの意見、報告がありました。その中に、「まちづくり活動」という意味がなかかなかわかりづらいというご意見がたくさんありました。今回の報告書の中で、まちづくり活動とは何かということ、さぼネットなり、サポートセンターなりの解釈で図式化していきたいと考えております。

続きまして、23ページです。

作業室、パソコンコーナー利用実績となります。19年度のデータは載っておりませんが、ほぼ同数の利用頻度であります。

24ページです。

ホームページアクセス数です。市民活動サポートセンターが前年度よりも減っているという数値が出ております。2月にホームページをリニューアルいたしました。その際にカウンター機能が付加されていなかったことが二、三週間ありました。て、その期間のカウンター数が加算されておられません。

続きまして、25、26、27ページです。

お帰りの際に提出していただく「利用票」があります。その利用票の集計結果を利用件数と利用人数に分けて表にいたしました。件数は増加しております。特に、打ち合わせコーナーは19年度よりも増加しております。パソコンコーナーの件数も増加しております。

26ページに移りますと、パソコンコーナーの利用人数が減っておりますが、これは1人が使用する時間が長いということも読み取れると思います。

続きまして、27ページ。利用集計票に記入していただいているご利用内容を表記させていただきました。会議コーナーの主な利用としては、話し合いの場として、事務作業の場として、団体内の研修の場としてとなっております。利用率の高い打ち合わせコーナーも、同じように話し合いの場として、事務作業の場として、団体内の研修の場として利用されています。また、その他ということで、コピー機を使用する方が多いことがわかりま

す。パソコンコーナーは、文書作成や、インターネットでの調べもの、その他スキャナ利用とあります。最近ではスキャナを使って活動の幅を広げている団体が多いので、1台のスキャナを順番待ちで使用する状況になっております。

以上、20年度の事業実施報告と施設利用の状況の報告をさせていただきました。

続きまして、21年度の事業計画及び事業実施状況を報告いたします。

別紙2の1ページから4ページまで計画が述べてありますが、この内容につきましても前回の協議会時にご説明させていただきました。本日は、4月から現在まで実施いたしました事業につきましてもご説明させていただきます。

5ページをごらんください。

市民企画講座の「説明会と団体交流会」を実施いたしました。

実施目的としまして、新規実施団体同士の交流や前年度実施団体による体験発表会を通し、企画実施に当たってのノウハウ等を紹介する機会を設け、活動を進める参考としていただくということです。当日は、9団体、14人の方に参加していただきまして、昨年度の事例発表、「npo夢まち工房」、「日本系譜学協会」からのお話をいただき、その後、グループに分かれまして、具体的に実施した方からのお話や、こんなことはどうなっているのだろうということで、初めて参加する方々からも多数質問がありました。非常に有意義な時間を過ごしたと報告がされております。

続きまして、7ページに移ります。

今年度の市民企画講座の進捗状況となります。

6月10日現在、14団体と職員とのコンタクトがあり、話し合い等々が進められております。きょう6/24現在の状況といたしまして、申込み受付が20団体を超過してしまいました。今年度の実施団体は20団体程度という予定になっておりますので、受け付けは終了いたしました。今後につきましては参加団体の状況や部屋の空き状況を加味し追加実施できたらと考えております。

続きまして、お手元の資料「NPOのための広報術、見てもらう、知ってもらうためのコツを教えます」です。

これは、活動を始める、または継続するために必要な広報に着目し、団体が効果的な広報活動を行うための知識を提供し、今後の活動の活性化を図ることを目的に実施いたしました。

全5回の講座、1回目は、「そもそも広報は何か」ということで、加納協働推進担当課長にお話しし、NPOが活動を行っていく上で広報を行うことの意味についてお話をいただきました。受講者からの感想が下段に掲載しております。また、申込者定員30名のところ34名の申し込みがありました。

また、第2回から第4回は「知っておきたいデザインの基本」ということで、編集プロダクション有限会社慶文社に講師をお願いいたしまして、チラシ、パンフレットを作成する際のレイアウト、または留意点などをお話ししていただきました。最終日には、実際に

レイアウトの実践を行いました。今回は、パソコンを使用せずに実施いたしました。

第5回は「達人が語る効果的な広報」ということで、さぼネットの三浦さん、北海道新聞社の高橋さんのお二人に、NPOとしての広報の方法、マスメディアを活用した広報についてお話をしていただきました。

続きまして、別紙2の8ページをごらんください。

5月8日に事務ブース入居団体の方々とエルプラザ公共4施設の職員との交流会が開催されました。それぞれ団体の設立経緯、または活動状況を1団体ずつお話ししていただきました。

また、10ページの資料におきましては、3名の世話人の方々につくっていただいた当日用の配付資料になります。世話人の方々が1団体ずつ聞き取りを行いこのような素晴らしいものを作成していただきました。この会の終了後、別な会場を設けさらなる交流を図りました。

11ページ、エルプラザ公共4施設の共催イベントのお知らせチラシを当日配らせていただきました。

以上で(1)(2)の報告とさせていただきます。

横江座長 どうもありがとうございます

ただいまの事業及び運営状況の説明について、委員の皆様からご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思いますが、どなたかございますか。

石村委員 1点確認したいのですが、6ページのしみサポ調査隊のご説明の中で、市民に知ってもらおうという活動で、大変大切な活動の一つだと思いますけれども、一歩進めてやりたいというようなご説明がありましたね。具体的にどういう感じで一歩進めるのか、その辺を確認したいと思っております。

といいますのは、従来ですと、大体は、パネルを張って見学者に見せる、あるいは、特定の場所で、例えば北区役所などに掲示するというふうに場所も限られているようですが、この辺はそれを変えるのかどうか、さらに、いろいろと展開を広めていくのかどうか、それも含めてご説明をしていただければと思います。

横江座長 事務局からよろしく申し上げます。

事務局(小野主査) 今年度の予定といたしましては、まず、各区に地域振興課がございますので、そちらの10区が集まる会議に参加させていただきまして、このような調査隊を展開させていただきたいと、直接お願いしてまいりました。各区のイベント等でこれを展開させていただけることを願っております。

また、札幌市の代表的イベント「まちづくりフェスタ」また大通で行います「だいどんでん」等に持ち込んで、広く市民の方に参加していただきたいという計画があります。

横江座長 ありがとうございます。

ほかに何かご質問等はございますか。

宇野委員 今のしみサポ調査隊の報告を見ていて、とてもいいことだと思ったのですが、

同時に、しみさぼ出張所がありますね。この件数が少なくなっていると思います。もともとが市民活動の周知度とこのセンターの認知度の調査ということであれば、逆に、しみさぼ調査隊にエネルギーを注いだ方がいいのではないかと感じました。これは、職員の方が結構大変だと思うのです。会場などの状況に応じては相談業務のようなものを組み込む形にして、二つの事業を同時に幾つもやっていくよりはその方がいいのではないかと感じました。

ただ、しみさぼ調査隊の報告書の中でいろいろと枠をくくってコメントをいただいていますね。後ろの資料は、モデルという言い方でご説明をいただいているのですが、2枚目、3枚目が多少ずれていまして、そこに関する事で改善点を感じたので、つけ加えさせていたきたいと思います。

12ページのクエスチョン2で、市民活動に「参加したい!」ということのを来た方に聞いているのです。15ページを追っていきながら、16ページ目で聞いているのだと思うのですけれども、参加したいというところで17の分野をお知らせして、その次に、参加したいものを聞くのですが、参加したい、したくないではなくて、その前に17分野を説明しているわけですから、自分はどの分野に興味を持ったのかという分野の内容を拾った方がいいのではないかと感じました。

15ページ目から1、2、3、4と追っていくと、それを聞いているのが6ページ目になります。クエスチョン3で、いきなりまちづくりのアイデアを募ってしまっているのです。ここにもあるように、回答数も少なかったから設問自体が漠然としていたと言うのですが、クエスチョン2で17の分野のどこかに当てはまるものを選んで掘り起こしておけば、逆に、クエスチョン3でまちづくりという形で聞いていかななくても、気になることという設問に変えるなどして、アイデアや気になることをどんどん書いてもらえば、それは自分がするのか、どこかの団体に属するのかということにつなげていくことができるのではないかと感じました。

あとは、クエスチョン5で、14ページ目にサポートセンターを知っていますかという問いがあります。これは、17ページの市民活動に興味を持っていただけましたかというところで、今度はサポートセンター自体を聞いている結果が14ページのクエスチョン5にまとまっているのですが、上の図と下の枠の分析にあるように、エルブラザに来ていながらサポートセンターを知らないという結果から読み取れるのは、逆にこのエルブラザでやる場合は、一般市民向けの参加のデザインを重視した方が、市民活動促進センターがあるということを知らしめる効果があるのではないかと感じました。

きょうの後ほどの検討事項に関係してくるのですけれども、参加のデザインをもっと絞るという意味では、そういう形にした方がいいのではないかと感じました。

横江座長 ありがとうございます。

何点かありましたけれども、事務局からお考えをお願いしたいと思います。

事務局（小野主査） たくさんのご意見を本当にありがとうございます。

設問の内容、どの分野に興味を持ったのかなど、一步突っ込んだ内容等を今後も考えながら、また展開方法も参考にさせていただきながら実施していきたいと思います。

横江座長 今、宇野委員からありましたように、設問等、調査の仕方、聞き方などを工夫しますと、もう少し自然にいろいろな意見を聞きやすいのかなと思いました。

では、井上委員、お願いします。

井上委員 別紙2の5ページからの説明会と団体交流会ですが、お伺いしたいのは、これと今年度の市民企画講座との参加者がどれくらいかぶっているかということです。実際に、この団体交流会に参加された方々が、この後、日付からいくと、この後、企画が煮詰まったというところは見えてこない気がするのですが、この団体交流会の参加によってさらに市民企画講座のアイデアが膨らんでいったのかという成果がありましたら教えていただきたいと思います。

横江座長 ありがとうございます。

では、事務局からお願いします。

事務局（小野主査） 7ページの進捗状況表をごらんください。

受付ナンバー9番の「日本コンチネンス協会」11番の「法邑芸術文化振興会」12番の「日本系譜学協会」14番の「npo夢まち工房」ともう一団体、ここには記載されておりませんが「ケースホワイト」という団体が説明会に参加し、その後、申し込みをしていただいたという実績です。

横江座長 ありがとうございます。

では、ほかに質問等はございますでしょうか。

岡田委員 今回の事業報告書は、またホームページに載るような内容でしょうか。

それであれば、今回、口頭では自己評価、分析等も言及いただいていると思うのですが、ぱっと見ただけではわかりづらいと思うのです。こういう実績でしたということだけではなく、もう少し利用者の声や自己評価や課題の分析などの図表も含めて、表だけでは、なぜこのときに多いのか、減っているのかということについてもわかりづらい点がありますので、例えば、こういうイベントがあったからそのときはふえているというようなものをつけ加えれば、どういうところを見て考えたらいいのかも読者にわかりやすいと思います。もし、そういう機会が用意されているのであれば、文書での表現も説明していただいたらいいのかなと思います。

もう一つ、私もうっかりしているのですが、20年度の新規事業と21年度の新規事業がどれなのかということもつけ加えていただければ、こういうものが新しく始まって、こんな結果だったのだという関心を持つと思いました。

横江座長 ありがとうございます。

20年度の活動については、表でいろいろいただいているのですが、さらに分析評価等でわかりやすくしていただければ理解も深まるのではないかとということと、新しい事業等の取り組みについて明確にわかるような形にできればお願いしたいということです。

が、事務局からご意見はございますか。

よろしいですか。

ほかにご意見はございますか。

宇野委員 これは事務局にお願いです。

別紙 2 から新しい計画が示されているのですが、計画の場合はいつもかぎ括弧で業務名で内容をくくってあるのです。例えば、〔情報収集・提供機能に関する業務〕はこんなことをしますなどです。もともと、4 期初回委員会で私ども委員は、この施設の「管理業務の計画書」ということでいただいています。32 ページの図の中では、市民活動サポートセンターは4つの機能の施設として市が設置し、管理者であり運営者である協会がこういう事業を組み立てますという二重の絵があったと思います。あくまでも、それに基づいてやっているということにいつも立ち返ることができるように、同様に別紙1の報告書も、事業名の見出しを入れてほしいのです。その方が見やすいかと思います。

よろしく申し上げます。

横江座長 ありがとうございます。

宇野委員からのご意見はお願いということでしたので、ひとつ改善いただければありがたいと思います。

三浦委員、申し上げます。

三浦委員 市民企画講座はもう締め切ったということですがけれども、去年やった団体が入っていますね。本来の考え方であれば、新しい団体を優先して入れるべきではないかという思いがあるのですけれども、そこら辺はどんな判断だったのでしょうか。

横江座長 ありがとうございます。

では、事務局から申し上げます。

事務局（小野主査） 21年度、市民企画講座の開設に当たりまして、新規団体に限るとか、新規団体を何団体以上という明記はしておりません。昨年度に実施した団体が、実施後自分たちがどんなふうに取り扱ったのか、それに対して次回実施するときにごやうというような過程を大事にしたいと思っております。今年度さらにステップアップするためということで職員とのかかわりが出てき、実現に向けて進んでいくということになります。何回参加している、何回以上参加してはいけないという考えはありません。

また、一覧表の中で14団体中5団体が初めて参加いたします。割合的に言っても少なくないと判断しております。

横江座長 ありがとうございます。

当初、スタートしたときにはまだ余り知られていなくて、手を挙げる団体が少なかったのですけれども、昨年はかなりの団体に取り組んでくれて、今年度は20団体ぐらいを予定しているということでありますけれども、秋以降に日程がとれればさらに企画したいということでしたので、新しい団体が積極的に参加できるような形であればありがたいと思います。

ほかに意見はございますでしょうか。

井上委員 今の位置づけということでありますと、こちらの報告書は活動をやったの報告書ということで感想も載っていて非常にわかりやすくいいのですけれども、こちらで討議する材料として、団体をどういうふうに育てていくかということを経験した経緯もあるということなので、どういう位置づけであるのか。もちろん、1年に1回だけの事業を支援するだけでは市民活動団体は育たないというのは重々承知しているので、例えば、少なくとも設立してどれぐらいたつのか、今、組織の規模はどれぐらいなのかという情報もあわせてこの別紙2の7ページの表に、連続して申し込んでいる、あるいは、今組織的には2年目、3年目であるというような、組織の今の到達点がわかるような情報も入れていただくと、我々としても判断しやすいのではないかと思います。連続だけれども、まだまだ支援が必要だということが見えれば、非常にわかりやすいのではないかと思います。それは、今すぐということではないのですけれども、秋に改めて始めるときに、そういう情報もつけていただければと思います。

横江座長 ありがとうございます。

各委員がもっとわかるような情報も盛り込むことが可能でしたらお願いしたいということで、なかなか立派な報告書ができていますので、実際にやられた団体はかなり喜んでいただけるのではないかと思います。

ほかに何かございますか。

石村委員 もう一点、確認したいことがあります。

別紙2の3ページの一番下に関係機関との連携がありますね。これは、主にボランティア研修センターと情報を共有するという項目が出ておりますけれども、これは具体的に何か進んでいることがあるのでしょうか。実際に何かやっておられることがあれば、ご説明願いたいと思っております。

横江座長 では、事務局からお願いします。

事務局（小野主査） 現在のかかわり合いは、別紙2の11ページにございますチラシの（仮称）エルプラザ祭のデアイバチフェアという中でボランティア研修センターとの共催の事業ということで話し合いがそれぞれ進んでいるということが一番大きな部分であります。

横江座長 それに関しましては、坂井委員から補足説明をお願いいたします。

坂井委員 以前にもこの席でその話を申し上げたと思うのですがけれども、9月12日の実施に当たって、昨年5周年のときと同じように、研修室が中から大に変わるという話もあるので、ボランティアの勉強をした人、あるいは、現にやっている人たちが、どうしてもボランティア研修センターの場合には勉強に来る人だけが勉強に来て、さようならと帰ってしまうと次につながらないものですから、こういうところで実施することによって、もっとほかにいろいろな団体があるのだというふうにつながりが出てくるのではないかと思います。ことしも実施して、相互の職員で話し合っていたら、我々も

中に入って、より効果的な事業になるようにということで進めております。

横江座長 ありがとうございます。

嶋委員、何かございますか。

嶋委員 皆さんが言ってくれましたので、結構です。

横江座長 ちょっと時間が経過してしまったので、次の議題に行きたいと思うのですが、何かありますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

横江座長 続きまして、(3)番目の事務ブースについて、事務局から説明をお願いいたします。

事務局(小野主査) 別紙3の1ページをごらんください。

過去2度の協議会の検討議題として、また、有志会議の議題として協議、検討していただきました。本当にありがとうございました。

その検討していただいたご意見をもとに、また、特に有志会議に参加された委員より意見を集約してはどうかということを私に直接アドバイスしていただきました。そのような経緯もあり改めて事務ブースのあり方、我々の支援スタンスをまとめましたので、ご報告申し上げます。

設置目的です。

事務ブースを拠点として活動できる期間内に団体の活動等が自立的に行うことが可能になるよう成長していくことを目指すという目的になります。

支援内容としましては、ブースが明るく親しみを持てる雰囲気づくりに努める。もちろん、私たち職員による声かけ、入居団体交流などを実施し、情報交換や励まし合う場、機会を設定する。入居団体の存在や活動内容を広くPRしていく。ホームページ上で現在行っております。また、「みんなのしみサポ」という機関紙、ポスター等を館内に張っております。

入居団体条件としましては、市の施設を占有しているということで、市民活動関連事業への積極的参加、協力を促す、まちづくりフェスタへの参加などが実績になります。

それから、公共性の意識を高めるため、サポートセンターの事業への参加、協力も実際にアマとホップの事業に2ブースの方が参加していただいております。または、先日行いましたキャンドルナイトのキャンドルづくりにも2ブースの方が参加、協力していただいております。

また、入居申請時の書類提出は必須とするということ。また、貸し出し要領の改正を進めております。

広報活動としては、団体の情報を積極的にPRしていきます。ホームページ上での団体紹介、または入っている団体の実際の感想なども今後盛り込んでいく予定です。さらに、募集記事を情報誌やフリーペーパーへ掲載します。新聞、ミニコミ誌、各区で発行している情報誌等に掲載していきます。館内またはサポートセンター内へ入居団体の紹介ポ

スターを掲示します。

最後になります。施設づくりという点で、明るく親しみを持てる雰囲気づくりに努めていく。それには交流会または行事を一緒にやっという姿勢です。また、ブースの愛称の設定については、施設のイメージに合わない判断させていただいております。基本的に面積、区画数は現行どおりです。また、ブースの活動報告書を3カ月に一度提出出いただき、そこに要望等が書かれた場合その内容をきちんと整理し、活動の充実の発展につなげていきたいと思っております。要望等には、自分たちの活動のポスターを張らせてほしい、そういう場が欲しいという具体的な要望があります。

今後につきましても、皆様方よりブースの状況を把握していただきながら、支援の方法などのご意見をいただきたいと考えております。

以上です。

横江座長 ありがとうございます。

ただいま、説明がありましたけれども、各委員からご意見はございませんでしょうか。

宇野委員 まず、表題に、一番上に“考え方”とあるのですが、その下の文中には“あり方”となっています。統一願います。

次の内容を見ていくと箇条書き項目が二重かぎ括弧で示され、一つ目に設置目的とあるのですが、そのあとの項目へと読み進むことで気が付いたのですが、設置目的ではなくて、この内容からすると、“支援の趣旨”ではないかと思いました。ここが支援の趣旨であれば、以降の箇条書きへとつながっていくのではないかと思いました。

これを全部やるのはすごく大変だと思います。事務局の方には頑張ってくださいと思うのですが、逆に、少し視点を変え、一番最初の設置目的を支援の趣旨と項目名を置き換えても“団体活動を自立的に行うことが可能になるよう成長していくことを目指す”というすごく大切な内容にも違和感がないと思います。次に入居団体の条件です。選考委員をやった経験上、この事務ブースをシェアし合っている、公共の施設を占有しているところをもう少し意識していただくという意味では、そこの入居団体のところには“占有していることに対する義務、使命”と書いてあるのですが、スペースをシェアし合っているのだという“入居の意義”を踏まえてということ項目立ても、その内容にある義務、使命という形の働きかけもうまくいくのではないかと感じました。

これまでの論議の中には、支援内容の中に、ブースを巣立った後に事務所を借りられる情報などが間々出てきたのですが、今現在はそこまでは難しいと思いました。ですから、職員の知恵や上手な仲介、場の空気づくりに尽力するというのが箇条書きでここに出ていると思いますので、いいと感じました。

あと、要綱が一部改定になった旨が3枚目につけられています。要するに、受付方法の添付の資料が必須になったという箇所ですね。それでいいと思います。それはとても大事なことだったと思うので、この改定には賛成です。注意して戴きたいことは、この入居条件と、要綱と、入居団体に説明するときに使われる“使用規約”が別途あると思うの

ですが、その整合性をもう一度チェックしていただいた方が間違いはないと感じました。

たまたま手元にあったのですが、以前から選考委員の中でも話されていたことの一つに、借りている入居者の取り消し事項のようなものが使用規約にきちんと書かれていなかったもので、そこをチェックしていただけたらと思います。

最後に1点気になったのは、次の広報です。これは、前から委員会の議論の中で、ここに入っている団体だけをこんなにPRする必要があるのかという意見がありました。内容を見ていくと、単なる広報ではなく、つまり市民が認知するという事だと思えます。市民が認知してほしい目標の一つは、入居団体そのものからの事務ブースを利用してこんなによかったということです。ここにも具体例として入居感想の掲載などが出ていますが、ここまで事務局がやるのはすごく違和感があります。逆に、ここに入ったことでこんなに活動が広がったということと、団体自らからと、事務ブースとう支援機能そのものを“市民の認知”という観点で位置づけた方がいいと思いました。

以上です

横江座長 ありがとうございます。

いい面と、もう少し中身のとらえ方の視点を変えたらどうかというお話がありました。

事務局からお願いいたします。

事務局（小野主査） 貴重なご意見をありがとうございます。

宇野委員からのご提案も含め、今後のさらなる事務ブースのあり方ということで、再度、文章を整理させていただきたいと思えます。また、せっかくの機会なので、有志会議に参加されていた委員の方からも、このあり方に関して一言ご感想をいただければと思えますが、いかがでしょうか。

横江座長 では、実際に活用されていまして三浦委員、いかがですか。

三浦委員 済みません、今、混乱しているところがあるので、後に回してください。

横江委員 坂井委員、いかがですか。

坂井委員 私も、頭の中でどうまとめたらいいか、何をテーマに持ち出したらいいのかが今のところ……。

横江座長 私も使っていましたので、一言申します。

市民団体で毎月の勉強会を行っていました。ちょうどエルプラザのブースができるという情報が入りまして、ぜひ応募してみたらいいよということで、よくわからなかったのですけれども、調べてみたら、非常に安い金額で事務所が借りられるということで、こんないい話はないということで入りました。

くじ引きで1番を引いてしまいまして、どこのブースでもいいよと言われたので、事務ブースの1番に入りました。結果、駅前の一番いい場所に拠点ができまして、みんながそこに集わなくても、そこに情報をいろいろ置いておきまして、みんなが自由に来て見られると。当初は、人を固定的に配置しようか、交代で配置しようかと思ったのですけれども、そこまではできなくて、みんなが来たら連絡ノートにいろいろなことを書いておい

て、それをだれかが見て知らせると。毎月1回は勉強会をやっていますから、必ず来るのですけれども、私もなるべく来るようにして、週に二、三回は寄ってみるようにしていました。

そういうことで、だんだん人数もふえてきたものですから、市民団体でそのままということではないということで、NPOを立ち上げて、約1年半ぐらいで事務ブースを出ることになりました。

そういうことで、非常に使い勝手がよかったのと、当時は、何カ月に1回の報告だけですから、それほど負担もかからないし、ほかの団体とも交流できたので、今も仲間に入れてもらって続けていますけれども、そういうことで、うちの団体としては非常にありがたかったなというところです。

今、いろいろ議論されていますが、支援してもらおうとか、その後どうなったかというところまで、実は団体としては大して期待していなかったのです。ですから、ここまでやってくれると本当にいいなと思います。ただ、図らずも、宇野委員からありましたけれども、どこまでサービスが提供できるかというのはめり張りをつけないと、何でもかんでも全部入れればいいということではないと思いました。

坂井委員、いかがですか。

坂井委員 私の場合は、単独の団体で入居したのではなくて、NPO団体あるいは一般の市民活動団体の連合体として、当時は20団体ぐらいの連合体として事務所があった方がいいなということで入居させていただきました。

でも、当初は、原則どおり、少なくとも月曜から金曜までのある一定時間、10時ぐらいから4時ぐらいまではだれかかれかが張りつくのだという前提でスタートしたのですけれども、それぞれの団体の長がそこに張りついて、いつ来るかわからない電話を待っているということだけでは仕事にならないです。そのうち、団体に所属する会員で時間のとれる方にとりあえず電話番号あるいは来客対応だけという形でお願いしたのですけれども、これだけ携帯電話の世の中になりますと、加入電話に電話がかかってくるケースは少ないですし、訪ねてこられる方も少ないということになります。

ですから、ずっと人が張りついていることの意味については、当初ほど重要性を感じられなくなりました。ただ、事務所があそこにあるということは、何か打ち合わせをしたり、印刷をしたり、他の団体と共同で何かできないかということについて話し合いをすることでは非常にいい場所だという形で2年余おりましたけれども、最終的には張りつく人間がいなくなったので、所属する団体の人が経営する会社に事務所をお借りして移ったということです。

我々は、三浦委員のところが続いて、あそこにいた時間の長い団体だったのではないかと思います。

横江座長 ありがとうございます。

三浦委員はいかがですか。

三浦委員 区画面積、区画数は現行どおりとするというのは、横浜の事例などを見ると、共有し合えるスペースの意識があるようなプランニングのいい事例があるのですが、そういうものをイメージしてこの意見が出たのだと思いますが、たしか、条例の縛りがあったということを大槻さんから聞きました。大体、そういうご判断だったのでしょうか。

事務局（小野主査） そうです。

三浦委員 あとは、愛称設定はイメージに合わない判断したというのは、検討経過をもう少し教えていただけますか。

横江座長 では、施設づくりのイメージに合わない判断したということで、事務局からお願いします。

事務局（小野主査） 今のサポートセンターのレイアウト等を考えて、一般の方々から親しまれる愛称は何だろうかということは検討しましたが、それに当てはまるような文言または名称がなかったということが事実です。また、それをどこかに掲示するのも違和感があるのではないかとということも検討の中に入れておりました。

横江座長 ありがとうございます。

あと、事務ブースについてご意見はありますか。

嶋委員 私もなかなかまとまらないのですが、宇野委員が言われたように、設置目的という項目が支援目的としていいのかということも含めて、ここから始まって支援内容や入居団体の条件となっていていっているのですが、自分も選考委員をやったことがあります。その中でこの場所を借りるに当たって、その団体にとって最大のメリットは何ですかということを質問した中で、住所が北区だけれども、限りなく札幌駅に近いところにあります。一等地ですから、そういうところに事務所を持つメリットがすごく大きいというところで、何年か事務ブースを借りている活動団体の様子を見た中で、入居条件やどういいう支援内容をしていくかというときに、この事務ブースを借りる団体が、例えば、活動範囲は全道各地でほとんどフィールドワークに出ているけれども、郵便物が届きやすいとか、ここに場所を持つことでイメージがいいということだけに限ってここを借りるということをどこまで認めるのか。これを読みながら、そういう制限はあった方がいいのか、ない方がいいのか、それとも制限はないのだけれども、選考の中で優先順位としてなるべくここを使うと。毎日張りつくという使い方にしなくても、何らかの形で人が集まってきて、この事務ブースなり建物なりを使うことを優先した方がいいのではないかと、今お話を聞いたり、この入居条件などを見ながら思っていました。

私として残念だったのは、事務ブースの愛称ですね。何とか長屋のような愛称にして、この場所を借りている人以外にも、次は自分たちも借りたいと思うような、着目してもらえるようなインパクトのあるものにしてはどうかと思うのですが、実際に運営されている方はそういうイメージが持てないのだなというところは残念でした。

私個人的には、親しみの持てる愛称があって、今、掲示する場所も思い当たらないと言われましたけれども、1階のこの建物には何があるみたいなのに愛称みたいなものが

掲示されて、どういう団体が入っているのかということまで含めて1階の入り口あたりで知らしめたらいいのかなと思っています。

横江座長 ありがとうございます。

せっかくエルプラザという名称がありますし、今回のデアイバチフェアもありますけれども、デアイバチ長屋ならぬ何かということですね。完全にそういうのはだめだということではなくて、継続して検討を願えればありがたいと思います。

ほかに何かございますか。

岡田委員 私も三浦委員と嶋委員とかぶるのですけれども、まず、ブースの名称は事務局で考えて思いつかなかったというのは、多分、限界があると思うのです。ですから、例えば、これから入居団体交流会を開催していくのであれば、そういう団体に名前を考えてほしいとか、OBの団体にも声をかけて名前を考えてほしいとか、公募でやっても知られていないから名前をつけにくいと思うので、入っている人たちに名前を考えてもらうことによって交流のきっかけにするとか、その人たちが自分たちでつけた名前を呼びながら使いやすくなっていくということも一つの仕掛けになると思います。

あとは、これは随時入れるのでしょうかけれども、今は3ブースが未入居ということで、こんなものなのか、あき過ぎなのか、どうなのでしょう。

横江座長 ありがとうございます。

名称等、広報企画等によって知ってもらうということもありますでしょうし、いろいろ皆さんの知恵を絞って関心を寄せてもらうということですね。

あとは、今は3ブースが未入居ですけれども、この経緯についてはどのようなことがあったのか、事務局から説明をいただければと思います。

事務局（小野主査） 2月に選考会を開きまして募集したところ、一つは選考に漏れた団体がありました。それ以上の応募もなかったということが現状であります。

また、あき状況に関しては、年度途中で退去する団体もありますので、常時満室になることはありません。

岡田委員 老人ホームなどだったら、あいたらすぐに埋まるということで、それだけニーズが高いものがあると思うのですけれども、こういうブースの場合、先ほど入居条件が厳しいという説明がありました。具体的にどこが厳しいのかすぐにわからなかったですけれども、この書類をそろえるのが厳しいのかどうかもわかりませんが、入居条件を緩和するという事は考えられているのでしょうか。

横江座長 事務局からお願いします。

事務局（小野主査） 入居に対する審査基準を設けておりますので、その基準に沿って選考委員の方々が実際に面談し、書類審査するという手続をとりますので、緩和するというものではないと我々は把握しております。

横江座長 ありがとうございます。

広く知っていただいて、常に次の条件を満たしている団体が埋まっていくと

いうふうになれば一番よろしいと思います。

ほかにご意見はございますか。

井上委員 私も非公式の打ち合わせを出ささせていただいたのですが、この問題に関して我々がきちんと押さえなければいけないことは、条例の限界がはっきりしているということです。このブースという形態、あるスペースをある団体が使うというスタイルがある以上の限界点は、はっきりしているのではないかと考えています。

僕は、この中身に関しては、今のところという条件つきなのだろうというふうに押さえています。ぜひ、今度の指定管理される団体が市レベルとの交渉において柔軟に運用できるようなスタイルを提案していただきたいと思います。これは、市民活動サポートセンターが団体を育てているということは、これだけのことをやってきたのは紛れもない事実ですので、そのあたりもぜひ任せさせていただけるような形で計画を立てていただければと思います。名前を決めるにしても、いわゆる入居している団体がいつもいて、電気がついていて、明るければ出入りする意味もあるのでしょうかけれども、実態としてはそうではないわけです。そのあたりは、占有というスタイルをある程度抜け出すようなアイデアがなければ、今のような改善案はなかなか難しいのではないかと率直に考えています。

そういう意味では、事務所という機能と交流という機能の矛盾をどう解決するのかというところでいくと、やはり市のベースになっている考え方をもう少し変えてもらわなければいけないのですけれども、その提案をできるのはサポートセンターを引き受けている皆さん方しかいないと思いますので、そこを少し提案していただきたいと思います。

また、もしよければ、今後の議題として、今言った基本的なスキームを一回ゼロにして検討するような形で議論していった方がいいのではないかと考えています。というのも、企画などをつくっていくのは市民企画講座で訓練できるわけです。その後、実際に日常的な活動をどう活性化させていくかというところで事務ブースというものがあるのですけれども、財政面など、今まで私もいろいろ意見を述べさせていただきましたが、市民活動サポートセンターで印刷機を使うとかパソコンを使うということと事務ブースを借りるところにもすごい差があるということです。あと、月1万円をプラスアルファで出せる財政を持っている団体というのは非常に少ないのではないかと考えております。そういうところもーから検討し直すことをしないと、多分、解決しないような気がするのです。

ですから、そういうところも含めた次の3年か4年の計画づくりと、ここまでの議論をもう少し形にするような機会を、議論の計画と言うと変ですけれども、そのあたりをご議論していただきたいと思います。

横江座長 ありがとうございます。

井上委員も実際に利用されていまして、規定以外のことについても可能性はないのかということいろいろ探られていました。次期指定管理期間に向けて取り組みを課題として投げかけておきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

時間が押していますので、次の議題に入りたいと思いますが、よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

横江座長 では、次に、検討議題につきまして、事務局から説明をお願いいたします。
事務局(小野主査) それでは、別紙5をごらんください。

交流活動支援事業の中の「しみさぼカフェ」という事業です。その事業展開についてのアドバイスをいただきたいということになります。

時間がないのですが、委員の皆様にごイメージしていただきたく写真を用意しました。昨年1月に行われました「しみさぼカフェ」の映像になります。

これが、しみさぼ商店街の物品販売の様子です。

キャップを集めてワクチンにしようという試みです。

ここは打ち合わせコーナー、カフェスペースです。

団体の周知のパンフレットをつくらうということで、パソコンを使用し作成しております。

この事業に関しましては、1月の協議会でご説明しておりますので、イメージがつかみやすいと思います。

日本茶インストラクター、NPO光輝ということで、「ちょこっと体験」のコーナーを実施しております。

これは、おたのしみ抽選会で、参加者全員に対応しているものです。

以上です。

続きまして、12ページ以降、昨年度に開催しましたエルプラ誕生祭の実施要綱及び実施内容、または各階でどんな状況だったのかを階層ごとに図式化しております。

まず、1階ではこのようなことが行われております。

外の通路のところでお店を開催した様子です。

これは、ベロタクシーの運行の様子です。隣のさつき公園との往復です。

入り口前での南京玉簾です。

スタンプラリーは子どもたちに大変好評でした。

続きまして、2階です。

2階では消費者センターの企画の事業や環境団体による実施コーナー風景になります。

環境プラザの前では地球温暖化防ぎ隊によるいろいろなゲームを通しての環境活動です。

続きまして、3階です。ホールではシネマフェスティバル、または健康スタジオでの3B体操の様子です。

これに横江座長が写っています。

当日は、横江座長、または坂井委員にご参加していただいておりますが、ほかの階は見に行く余裕がないのではないかと思いますので、ごらんいただければと思います。

最後に、4階です。

こちらは市民活動団体が「おハコとばねる」ということで、いろいろな自分たちの活動を発表しました。また、「わっしょい! ボランティアまつり」ということで、ボランティア

ア研修センター主催会場、または学生たちが実施した「札幌もりもり！もっこり祭」の迷路の映像です。

以上になります。

このような形で、ことしは、エルプラザ祭（仮称）「デアイパチフェア」の中に市民活動サポートセンター2階部分のスペースを使用して実施したいと考えております。どうか皆様方のご意見、アイデアをお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

横江座長 ありがとうございます。

9月12日に交流活動ということで企画されています。今まで、いろいろ活動してきたのですが、事務局の方で、今はどういう状況かということ、概略でいいので教えていただけますか。

事務局（会田主査） 私から説明させていただきます。

昨年の5周年事業を受けまして、規模的には大体同規模か、予算の関係で若干縮小になるかと思っておりますけれども、今回も、施設利用者の皆様の交流と、一般の市民の方にたくさん来ていただける内容を考えております。

募集は、主に3階、4階を利用いただいております一般のサークル団体の募集を中心に始まっておりまして、現在、約15団体の募集がございます。今回は40団体と募集の枠を広げておりまして、昨年に参加いただいた方に声をかけている状況です。

この後、引き続いて、市民活動をされている皆さん、2階のブース利用の方を中心に、第2次といいますか、カフェの部分としての募集をさせていただきたいと思っております。

まだ具体的に数の把握はしていないので、これからということです。

横江座長 ありがとうございます。

40団体の募集ということで、今は15団体ほど出ているそうです。ぜひ、いろいろ活動しているものをこの機会に発表してみたい、参加してみたいということで、各団体で検討されているかと思っておりますけれども、そのときに、いろいろなアイデア、意見、提案ということで各委員からいただきたいと思っております。

まず最初に、坂井委員から、既に先ほどのボランティア研修センターとの連携ということで取り組んでおられるかと思っておりますが、ご紹介いただければと思っております。

坂井委員 同じ話になってしまいますが、昨年に引き続きまして、もしお借りできるのであればということをお願いしているところです。大体、場所の確保も何とかしていただければということでお願いしているところです。大体、場所の確保も何とかしていただければいいので、我々、在宅福祉連合会というところが主体になって活動しますけれども、せっかくの交流という場ですから、市民サポートセンターの方で募集した団体の中で、ぜひ「わっしょい」の中でもいいから報告したい、あるいは、何かパフォーマンスをやりたいという団体があれば、紹介してもらって、どんどん入ってきてもらって、そこでまた新しい出会い、交流が生まれればいいなということで現在進んでおります。

こちらの進行状況、あるいは、どこをどのような形で使えるのかということが固まりつ

つあるようです。我々の方もそれを受けて、来月7月7日に在宅福祉連合会の役員会でなるべく固まった形のもので、また市民活動サポートセンターと打ち合わせしていくことを現在考えております。そのほかに、それはそれとしておいて、「わっしょい」の中とは別口で出番があればということも検討している最中です。

横江座長 ありがとうございます。

坂井委員のところでは、ことしも企画をやられるということですか。私のところのNPOや連合会でもそれにジョイントするような形も、まだ正式には決まっておりませんが、スペース、時間的余裕があれば連携していくというふうに考えております。

三浦委員はいかがですか。

三浦委員 エルプラザ祭があって、その中にしみさぼカフェを含めようということですね。私は、エルプラザ祭には参加しなかったものですから、イメージがいまいちつかめないので申しわけないのですが、コラボレーションを図るためにこういった点に留意すべきかということです。ただ、申しわけないのですけれども、そのアイデアが今は出てこないのです。

横江座長 わかりました。後でご意見がありましたらお願いいたします。

嶋委員はいかがですか。

嶋委員 交流活動支援事業をどのように（仮称）エルプラザ祭の中で提案するかということが、取り入れていくかということですね。

今、交流活動支援事業は、前回のしみさぼカフェの様子は大体わかりました。この場に入れていいのかどうかはわかりませんが、自分たちの事業や活動を紹介するというのが前回のしみさぼカフェのメインだったと受け取っています。時間に制限はあるのですけれども、例えば、こういうところに参加すると自分のブースからなかなか離れられないので、全体で共有する時間がなかなか持てないですね。その時間をどうにか工夫して、ここの参加される団体が一遍に店をたたむ時間が発生するのであれば、みんなでどこかに自分たちの活動を置いて参加することで、スキルが上がるようなものなどがエルプラザ祭の中にあるとそこに参加して、一石二鳥ではないのですけれども、そうかなと受け取りました。時間の制限でどこまで可能かはわかりませんが、たとえ30分でも1時間でも、自分の持ち場を離れて、何か……。

坂井委員 その点でいいですか。

私たちもそのことをいろいろと考えています。ボランティア研修センターでやっているときもそうですけれども、発表が終わってどんどん帰られてしまっただけでは意味がないので、最後の1時間ぐらいで、お茶と駄菓子を用意して、お話し合いをする機会を設けていました。実は去年もわっしょい！ボランティアまつりの中ではやっているのです。それをPRするタイミングというか、やり方が我々はわからなくて、去年は4階にいた一部の方にしか情報が伝わらなくて終わってしまったのです。

そういうことを具体的にやるということになれば、例えば、発表は11時から3時まで

で打ち切って、残りの1時間は、その場所で机を移動させて、各団体の皆さん自由にお入りくださいという形でやることは、我々連絡会側としても可能だと思いますし、先ほど横江座長から出た联合会側の方が請け負ってもいいのかなと思いますし、いろいろなことが可能であると思います。

新しくしみさばの事務局で別な部屋をとっていただくということをしなくてもできるのかなと考えています。

嶋委員 その中で、交流したり、知り合うということは、交流会を年に何回かやるとありますので、その中でもできると思いますが、やはり、自分でもらって帰るものがあるとよりいいと思うのです。簡単にできるようなスキルアップということでは、自分たちの事業を今どのように行っているかというチェックシートのようなものですね。私は、支援の方はよくわかりませんが、例えば、こういうことはしていますか、ああいうことはしていますかということをチェックシートにマークして、自分たちはまだここまで到達していないな、こんなこともやった方がいいのかなと。チェックシートを渡して、団体にとってこういうスキルがあったらいいですとか、10分だけかが読み上げてチェックして、そこで自分たちができているもの、できていないものを目にしてわかると。短い時間でいいのですけれども、自分たちの団体がどこまで成長しているか、足りないもの、到達点を確認できるようなことをやってみるとか、何かもらって帰れるものがあつたいいと思います。

横江座長 ありがとうございます。

やってみると、おもしろい企画かもしれませんね。

井上委員、どうぞ。

井上委員 まず、質問です。今回応募している団体の中で、市民企画講座に今まで応募された団体はどれくらい入っていますか。

事務局（会田主査） 今、実際に応募いただいている団体のデータがありません。

私の説明が少し悪かったかと思いますが、今、応募を受け付けしているのが一般の有料貸し室ご利用のサークル活動の方ですので、市民活動にご登録いただいている方の数はまだ少ない状態です。そういう意味で言いますと、私の見た限りでは、重なっている団体はなかったと思います。

井上委員 坂井委員と嶋委員のお話を聞いて、最初、私も参加経験がなかったのでイメージがわかなかつたのです。実はどうしてかということをお願いがましく述べさせていただくと、札幌遠友塾の場合、日常活動にほとんどの人が割かれていて、それに必要な人だけを集めて、今、人数はスタッフと受講生が80人で同じくらいなのですが、自転車操業をしています。個人的にはイベントによる広報の必要性は感じるのですけれども、なかなかそこまで手が回らないのです。

そこで、我々も、そういう団体もみんな参加して、何か身になるきっかけは大事だと思います。30分でも、1時間でも参加できるという仕掛けはとても大事だと思います。

そこで、今、ぱっと見たところだと、市民活動サポートセンターそのものをここに絡めて何か宣伝するとか、宣伝というよりは、僕のイメージですと、サポートセンターに集まっている団体が集まってできる研修やシンポジウムなどを織り込んだらいいのではないかと思います。以前、私から無謀な提案をさせていただいたのですけれども、交流をもっと深めていく中でシンポジウムや分科会のような大きな学習企画をつくってほしいという話をしました。それで、きょうこの中身を見ますと、この中に盛り込んだらできるのではないかという気がしたのです。

これは、実は私の社会教育のイメージでいくと、これは公民館まつりです。札幌市のまちはすごく広いですが、そこで活動している人たちが集まる公民館まつりだと思っております。公民館まつりだとこのイメージも同じですが、もう一步踏み込んでいくと、これからまちをよくしようと思って集まっている人たちがそれぞれ教育でも環境でも福祉でもいろいろ持っているイメージをつき合わせて、自分たちが札幌市というもっと大きな地域の枠組みで見たときに、僕たちはこういう位置づけでやっているのだと。そこは、自分たちの枠の中に入っていると一番見えないところだし、自分たちのコップの中で右往左往してしまって、目的を見失うことがよくあるのです。そこを、次の活動ステップをどうつくっていくかといったときに、外の視点は必要なのです。自然に見られる機会は、こういうところでほかの団体との交流もできるし、もっと言うと、いろいろな団体が集まって見えるものはあしたのまちづくりのイメージだと思っているのです。

そこをコーディネートできるのはこのセンターしかないのではないかと思います。これだけ活動団体を育ててきたということもありますので、その成果が一番出せるのはその時間帯なのではないかと思っています。それこそ1時間でも30分でもいいので、そういうものを織り込んでいく準備段階というか、活動交流みたいな分野別みたいな部分を坂井委員がかかわっているところやいろいろな分野で幾つかやってもらって、それを最後に集約していく形ですね。

横江座長 わかりました。ありがとうございます。

団体の事情でなかなか参加できないのだけれども、もうちょっと参加しやすい工夫を織り込んでもらえれば何とか協力していきたいということかと思っています。

石村委員からございますか。

石村委員 私は市民感覚でお話ししてみたいと思います。

これは、大変大きなイベントだと思います。このイベントの特徴は、時間、空間、あるいは組織、そして感動を与えるということだと思っております。これがイベントの基本ではないかと思っております。

時間や空間や組織については、もうきちんされていますので、既に決まっていますけれども、問題は感動なのです。この感動を与えることによって、入場者の多寡は非常に出てくると思います。1例を挙げますと、例えば、オープニングをどうするか、最後のフィナーレはどうするかということも、実は感動上、非常に大切なことなのです。このイベント

に果たしてそれが合うかどうかはわかりません。もしないならば、やはり今回から考えることも一つの方法ではないかと思っております。市民の方に大勢参加してもらおうという観点に立てば、こういう方法もひとついいのではないかという気がしております。

実は、ことしの6月に三浦委員からの紹介で、チベット人の女性歌手のコンサートがありました。これは大変大きなイベントでした。これは私も観客として行っていたのですが、実は最後にこの方が日本の唱歌、ふるさとを1番から3番まで歌ったわけです。これは、会場の皆さんが全員で一緒に歌ったのです。そして、皆さんが涙を流したのです。これが感動だと思うのです。イベントの感動だと思うのです。やはり、イベントというのに、こういうものがあっていいのではないかと思うのです。みんな非常に印象を強くしたのです。

こういう感動のあるイベントが望ましいと思っております。

大変難しい注文で、急にできるものではありませんけれども、何かの企画の中にそういうものを入れていただければということで、あえて申し上げました。

坂井委員 やれるとすれば、オープニングでうまくホールを使うという形が考えられればいいのですけれども、それ以外は1階から4階まで使いますので、館にいる全員が一遍にというわけにはなかなかないかとは思いますが。

横江座長 ありがとうございます。

ちょっと忘れがちな一番大事なことで、感謝して、感動して、歓喜してということで、その辺が盛り込めるといいなということです。

宇野委員はいかがですか。

宇野委員 実は、皆さんの話していることがわからないのです。

別紙5のナンバー1に検討議題とあります。確認ですけれども、まず、しみさぼは例年1月に実施しているものを、来年の1月をやめて、4行目か5行目のこの9月のエルプラザ祭にくっつけてやりたいというのが事務局案なのでしょうか。

事務局（会田主査） はい。

宇野委員 では資料には、今までの「しみさぼカフェ」やプラザ誕生際に関するアンケートが添付されているのですが、この市民活動センターのスペースを使ってエルプラザ祭をしようという企画書はどこにあるのでしょうか。

例えば目的や参加対象など、先ほどの資料の12番目にはエルプラザ祭の目的などが書いてあるのですが、ことしの9月12日に行うであろう企画の内容がどこにもないのです。

そこで、それぞれおおむね評価が高かった「しみさぼカフェ」をやめて、今度からこうしようとするのかという理由をまだ説明いただけていません。それから、エルプラザ誕生祭とエルプラザ祭は一緒にカウントしないのかということが質問です。

横江座長 では、事務局から説明をお願いいたします。

事務局（小野主査） 「しみさぼカフェ」のことですが、1月に実施したものを、今年度は9月12日に実施するという事です。また、現在、市民活動サポートセンターで（仮称）エルプラザ祭にどうかかわっていくか、または、どんなふうに事業展開していくかと

いう事業計画は現在煮詰めている最中です。きょうのこの場の皆さんの意見を最大限に取り入れていきたいということです。実施起案等はありません。

宇野委員 では、どうしてしみさぼカフェをやめて、エルプラザ祭で一つにすることになったのでしょうか。

事務局（小野主査） しみさぼカフェをやめるということではなくて、1月に実施しているしみさぼカフェを9月に実施することになります。

宇野委員 それでは、質問です。

14ページのエルプラザ誕生祭の企画内容の中に、これは終わったものですね。これには市民活動サポートセンターとしての企画内容は含まれていないのでしょうか。

事務局（小野主査） 昨年度に実施した実施要綱の中には、市民活動サポートセンターのスペースを利用した企画（案）は載っておりません。ただ、市民活動サポートセンターとしてかわりのあるものは3階ホールで行いました映画の団体との支援等々でのかわり合いになります。市民活動登録団体「映画の空気」というところと我々が一緒になってその事業を展開したことになります。

宇野委員 となると、「おハコとばねる」というのは違ったのですか。

事務局（岡本課長） 全体の補足の説明をさせていただきます。

岡本です。よろしくお願いいいたします。

昨年度、エルプラザ開館5周年ということで、全館を挙げてフェスティバルをしました。全フロアでイベントを開催し、内容はさまざまだったのです。その中では、市民活動団体が展示をやったり、また体験会をやったりということが含まれました。それが「おハコとばねる」という分野です。

そのイベントの中も、市民活動サポートセンターは市民活動の支援の場として通常の営業をしておりました。2階の市民活動のあたりは通常営業で、1階、3階、4階は全館を挙げてのフェスティバルをやっていました。

そこで、私どもが考えたのが、2階の市民活動サポートセンターも全館を挙げてのお祭りに加わって、そこでもイベントをやっていると、ボランティアまつりに興味があっていた方も、2階にお運びいただけるかもしれない。また、1階でやっていたゲームコーナーに興味を持ってきた方も、もしかしたら2階に上がって市民活動を知る機会にもなるかもしれないということで、これまでは1月にやっていたしみさぼカフェという市民活動のお祭りをエルプラ祭と同じ日に開催しようと企画しました。日程を大幅にずらして、しかも、お客さんたちが全館でいろいろな分野のことを見て、聞いて、体験できるようなお祭りにしようということで企画を大幅に練り直した形になります。

宇野委員 そうすると、2階の通常業務のようになくてもいいから一緒にやろうという案なのですね。

先ほどの説明では、きょうは企画書案がまだ出ていないという中で私たちは議論のしようがないような気もするのです。やはり、そこはこういう対象でなど参加のデザインとい

うたたき台がないと、短い時間で共有は難しいような気がします。

それから、この図です。特に3階配置図は、「おハコとぱねる」とか、「あなたのほほ笑みを見つけませんか？」などの色分けがちょっと見えないのです。どれがどこだったのだろうというののがわかりにくいですね。資料が見にくいです。

横江座長 ありがとうございます。

実は、今、事務局からお話がありましたけれども、きょう、各委員の意見を聞いて、それを全部取り入れることができるかどうかはまた別ですが、今、いろいろ思案を重ねてつくっているところです。ただ、団体参加募集については、一部、6月15日から受け付けていますが、それを走りながら調整しているところで、各委員の意見をお聞きしたいということです。

何点か、自分がやっていることではなくても、みんなで参加できるものとか、最初と最後に感動を共有できるものが企画できないかなどの意見が出ましたので、その辺を取り込んで企画を十分にやっていただきたいと思います。

岡田委員、いかがですか。

岡田委員 今、いろいろと聞いている中で、なぜしみさぼとエルプラザのお祭りを一緒にするのかわかりました。今までしみさぼカフェでしていた内容は、社会福祉の分野でもいろいろな団体がこういうものをつくりましたと売っている場があるのですけれども、どうも来てくれる人は関係者で、おつき合いで買っていくというパターンが多くて、多分、買わないだろうなと思ったりするようなことがあります。私は、しみさぼカフェに行ったことがないのでわかりませんが、一般の人に対しては魅力が欠ける部分があると思うのです。

今回、エルプラザのお祭りを一緒にするという意味では、一般の人がそういうものに触れる機会があるということではいいチャンスになるのかと思います。そういう中で、感動という話も出てきているのですけれども、一般の人が参加型というか、例えば、何かお土産が欲しいみたいな話があったので、そういう意味では、ビンゴをして、その中で出展者のものをビンゴで当たるとかというふうに、何か仕掛けをつくらないと、やれば、覗くでしょうけれども、多分通り過ぎていくことで終わってしまうかもしれないので、そういうところでは工夫できるのではないかと思いました。

横江座長 ありがとうございます。

ということで、時間になってしまったのですけれども、最後にもう一点残っております。

いろいろな意見をお聞きしたいということですので、これから思いつきましたら、事務局にどんどんと提案いただければ、取り入れることができるものは、皆さんと一緒につくっていききたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

横江座長 では、(5)の事務ブース使用団体選考委員の推薦について、事務局からお願いたします。

事務局（小野主査） 別紙4の1ページをごらんください。

現在の事務ブースの使用状況になりますが、ブースナンバー13、18、19が空き区画となっております。また、今月末でブースナンバー2の「経営アドバイザーネットワーク協会」さんが退出されますので、計4区画があくこととなります。よって、新たな入居団体の募集を開始したいと思っております。

10月1日に入居を考え広報さっぽろ7月号に掲載し、7月21日から8月20日に募集要項の配布し、申し込みの受け付け期間となります。9月8日に入居団体の選考委員会を開き、9月17日に入居団体の説明会という流れで考えております。

3ページをごらんください。

先ほども説明がありましたように、貸し出し要領に改正がございました。前回の2月に行いました選考委員会において選考委員の方々からより厳正に選考するための方策として意見が出され、また、札幌市からの要請、指導もありました。よって、第4条にあります受け付け方法の添付書類を必須提出に改正、6月1日より施行しております。

また、選考委員の選出におきましては、委員の構成メンバー4名のバランス、札幌市1名、指定管理者1名、委員の皆様から2名の選出を考えております。委員の方々に広く経験していただきたいと考えておりますので、前回就任した委員以外の方をお願いしたいと考えております。

どうかよろしく願いいたします。

横江座長 皆さん、いかがでしょうか。

では、特にお声がないようでしたら、事務局案をお願いしたいと思います。

事務局（小野主査） 事務局案をお伝えいたします。

嶋委員及び横江座長のお二人をお願いしたいと思っております。

横江座長 それでは、嶋委員と私ということで、皆さん、よろしく願いいたします。

それでは、時間が過ぎてしまいましたけれども、きょうの議事をすべて終了いたしたいと思えます。

皆さん、どうもありがとうございます。

あとは、事務局からお話をいただきたいと思えます。

事務局（会田主査） 横江座長を初め、委員の皆様、ありがとうございました。

今回の議事録については、事務局で作成させていただき、一度、各委員の皆様へ送付させていただきましたきまして、確認の返信をいただいて、集約させていただいたものを市民活動サポートセンターホームページに掲載させていただく予定です。どうぞよろしく願いいたします。

最後になりますけれども、札幌エルプラザ公共4施設館長の大川よりごあいさつを申し上げます。

事務局（大川館長） 大川でございます。

事業運営協議会の終了に当たりまして、委員の皆様へ一言お礼のごあいさつを申し上げます。

ます。

本日は、大変お忙しいところ、市民活動サポートセンターの運営につきまして長時間にわたりご検討いただき、まことにありがとうございました。

また、座長をお務めいただきました横江委員におきましては、重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

第4期事業運営協議会も残すところあと2回となってまいりました。委員の皆様方から多数のご意見をいただきました。しみサポ調査隊のアンケートの設問、あるいは、調査内容、事業報告のホームページに載せるときの方法、さらに、事務ブースのあり方についてなど、さまざまなご意見をいただきました。私ども指定管理者といたしまして、今後、サポートセンターの運営に反映させてまいりたいと思っております。

また、私どもはいつも大切にしていることは、人と人とのつながりで、ここに勤務する職員として今まで以上に利用される方々といい関係を築きながら、そして、気軽に話ができるような環境づくりに努めてまいりたいと思っております。

きょうは、本当に長時間にわたりましてのご検討、ありがとうございました。

簡単ではございますが、一言お礼とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

4. 閉 会

事務局（会田主査） 以上で、第4期第3回事業運営協議会を終了いたします。

皆様、どうもありがとうございました。

以 上